

work/work.htm (2012年2月1日アクセス)

30)厚生労働省. カルテ等診療情報の活用に関する  
検討会報告書. 平成10年6月18日

<http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1006/h0618-2.html>  
tml (2012年2月1日アクセス)

31)主任研究者 花井彩. 厚生省がん研究助成金  
5-3 「地域がん登録の精度向上と活用に関する研  
究」班. 地域がん登録における情報保護. 平成8  
年3月

32)開原成允, 樋口範雄. 医療の個人情報保護とセ  
キュリティー—個人情報保護法と HIPAA 法. 有斐  
閣

33) J.P. Jacobs, C.K. Haan, F.H. Edwards, et al.,  
The rationale for incorporation of HIPAA  
compliant unique patient, surgeon, and hospital  
identifier fields in the STS database, Ann  
Thorac Surg 86,695-698, 2008.

34) The STS National Databases are HIPAA  
Compliant

<http://www.sts.org/quality-research-patient-safety/national-database/database-participants/participant-requirements/hip> (2012年2月1日アクセス)

図1 データの質検証業務の実施体制

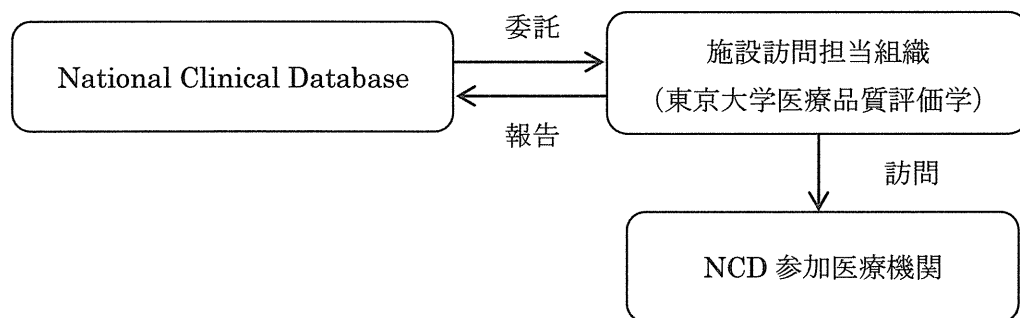


表 1 手術台帳の種類と特徴

	手術室で 行われた 手術	手術室以外 で行われた 手術	特徴
入院台帳 (作成：診療科)	○	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術患者と非手術患者が混在している</li> <li>・手術室で行われた大きな手術については記載があるが、病棟で行われた手術については記載されないことがほとんどである</li> <li>・外来患者や他科に入院中の患者で NCD 登録対象の場合には、参照が困難</li> </ul>
当該診療科として 受け持った全手術 患者の台帳 (作成：診療科)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来患者や他科に入院中の患者でも当該診療科として、当該診療科として受け持った患者であれば台帳に記載されている可能性がある</li> <li>・当該診療科として受け持った患者以外（例：救急でたまたま対応した患者など）については、照合不可</li> </ul>
手術室の管理シス テムから抽出した 手術症例一覧 (作成：手術部)	○	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術室で行われた手術症例一覧（手術台帳）に相当する場合が多い</li> <li>・外来患者が含まれているかどうかは、施設診療科によって異なる</li> <li>・入院中の診療科単位の情報で管理されるため、他科に入院中の患者として NCD へ登録されている場合には、参照が困難</li> <li>・術式 2 以降の照合は難しい場合がある</li> </ul>
レセプトデータ (作成：医事課)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レセプトデータのコーディングが現実と大きくずれていない限りは、ケースファインディングとしての精度はある程度確保できる（コーディングが正しいかどうかは、そのまま術式を選択しなければ問題とならないため）</li> <li>・医事課など他部門との連携が必須</li> </ul>

表 2 術式名と手術場所の例

手術場所	術式の例
手術室	胃切除術、乳房悪性腫瘍摘出術、甲状腺腫瘍摘出術、肺切除術
病棟	皮膚切開、デブリードマン、創傷処理
内視鏡室	内視鏡下胃瘻造設術、ERCP/碎石術
血管造影室	閉塞性動脈硬化症に対する経皮的血管形成術、大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術
外来	皮下異物摘出術、皮膚切開、デブリードマン、創傷処理

表 3 登録基準の例

登録基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療科に関連する subspeciality の登録対象症例と、登録術者の関連する subspeciality の登録対象症例のみ登録</li> <li>・ 当該診療科が担当した手術で、手術室で行われた症例は全て登録</li> <li>・ 全身麻酔下で行った手術を中心に、subspeciality の登録対象症例のみ登録</li> <li>・ 当該診療科のチームとして行った手術症例を登録</li> <li>・ 病棟で行った処置に関しては、登録していない</li> <li>・ レセプトデータから手術・処置のコードが入っているものを登録（入院・外来を問わない）</li> </ul>



表 4 照合項目と対応する原資料の種類

	様式 第 1 号*	DPC	診療記録 (入院時)	手術 記録	手術 記録	退院時 要約	退院時 要約
作成元	医事課	医事課／診療 情報管理課	看護師	手術室	医師	医師	看護師
院内管理コード	△						
登録の拒否申請							
患者生年月日	◎						
患者性別	◎						
入院日	◎						
救急搬送		△	○			△	△
手術日				◎	◎	○	○
術者				○	○		
術式				○	◎	△	△
退院日	◎						
退院時転帰	◎					○	○
術後 30 日状態						△	△
死亡日	○					○	○

表 5 各入力項目の照合時の特徴

項目名	特記事項
院内管理コード	施設で対応表を提示してもらえれば照合可。
登録の拒否申請	現時点では登録拒否を申請した患者がいないため記載がなく、拒否があった場合の情報の残し方についても検討はなされていない。
救急搬送	DPC では「消防署」から受け入れたもののみが「救急搬送あり」になるため、消防署以外の救急車による搬送は含まれていない。入院時の他の記録（看護師作成による入院要約や入院時の看護記録）を参照したり、入院時間（夜間入院か、等）を確認することで、より正確な検証が可能となる。
術者	複数名の術者が記載されてあるため、NCD に登録される術者の順番のルールが決まっていれば、おおよそは照合可。
術式	手術室で管理される術式名は、院内のルールに基づく術式や診療報酬の請求上の術式名が使われることも多いため、必ずしも NCD 術式とは対応していない。
術後 30 日状態	術後 30 日以内に退院した患者の場合は、退院後の受診情報も照合する原資料に含める必要がある。

## 資料1 外科専門医制度と連携したデータベース事業に関する説明資料

[ホーム](#)[NCDについて](#)[よくある質問](#)**NCDについて**

事業概要

名簿

▶ 社員・役員

▶ 委員会

定款

組織図

倫理的配慮

参加施設一覧

[ホーム](#) [NCDについて](#) [事業概要](#)

概要

**外科系の専門医制度と連携したデータベース事業  
「National Clinical Database」について**

病院医療の崩壊や医師の偏在が叫ばれ、多くの学会や団体が医療再建に向けて新たな提言を行っていますが、どのような場所でどのような医療が行われているかが把握されていない状況では、患者さん目線の良質な医療は提供できません。そこで臨床に関連する多くの学会が連携し、わが国の医療の現状を把握するため、『一般社団法人 National Clinical Database』（以下、NCD）を立ち上げました。この法人における事業を通じて、治療成績向上や外科関連の専門医の適正配置の検討が可能となります。今の外科医を取り巻く状況は、外科医不足や過酷な労働環境など非常に厳しいものがあります。しかしながら我々外科関連学会では、社会への貢献とともに、このような状況を改善していきたいと考えています。皆様のご理解とご支援を頂ければ幸いです。

一般社団法人 National Clinical Database 代表理事  
里見 進**NCDの目指すもの****1. 外科関連の専門医のあり方を考えるための共通基盤の構築**

日本では現在、多くの診療科領域において、どのような場所でどのような手術が、誰によって、どの程度の数が行われているかが、把握されていない状況です。外科関連の専門医の適正配置を考える上では、現状を把握することがなによりも重要です。外科医は、自ら実施したすべての手術をNCDのデータベースに登録します。NCDでは、患者さんに最善の医療を提供するため、これらのデータを分析・評価し、外科医療の現状を体系的に把握します。

**2. 医療水準の把握と改善に向けた取り組みの支援**

NCDに参加することにより、各施設は、重症度補正等を行った医療水準を示す指標（真の実力）を把握することができます。全施設の傾向と自施設を対比する中で、自施設の特徴と課題を把握し、各施設それぞれが改善に向けた取り組みを行うこととなります。国内外の多くの事例では、このような臨床現場主導の取り組みを支援することにより、品質向上に大きな成果を上げています。

**3. 患者さんに最善の医療を提供するための政策提言**

NCDのデータ解析により、日本全体として質の高い医療を提供する上で望ましい施設環境や、促進すべき医療プロセスが明らかになります。外科関連学会はNCDの活用により、最善の医療を提供するための体制整備や取り組みの促進について、根拠に基づいた検討を行うことができます。また今後は、外科関連学会をはじめとした専門家集団だけでなく、地域の方々や患者さん、保険者や行政と連携した活動も行っていく予定です。

**4. 領域の垣根を越えた学会間の連携** 症例を登録する ▶ 初めての方へ ▶ **NCD周知用資料**ダウンロードページは  
こちらから

国際的なリーダーシップを示していく上でも非常に期待される事業です。

以下50音順

外科専門医（日本外科学会）

呼吸器外科専門医（日本胸部外科学会，日本呼吸器外科学会）

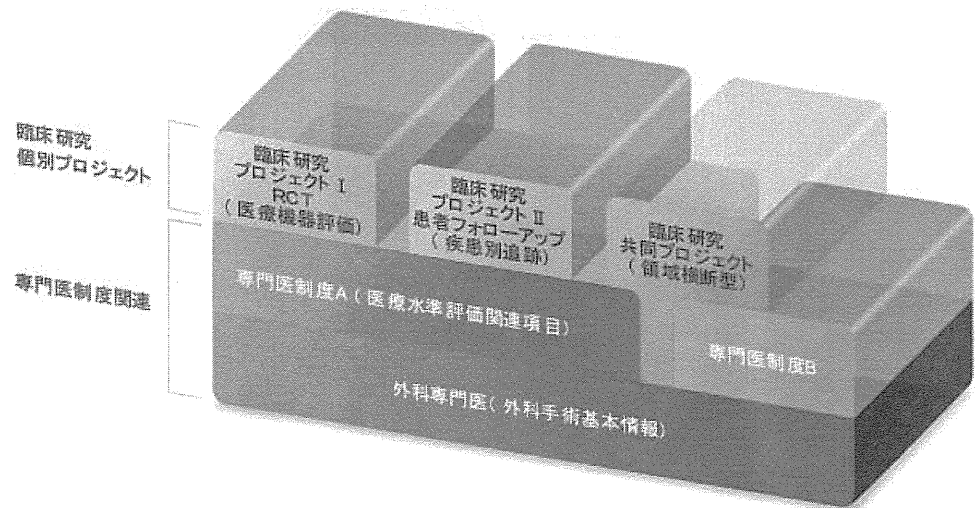
消化器外科専門医（消化器外科領域については、次の学会が「消化器外科データベース関連学会協議会」を組織して、NCDと連携する：日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本食道学会、日本胃癌学会、大腸癌研究会、日本肝癌研究会、日本膵臓学会、日本内視鏡外科学会、日本腹部救急医学会）

小児外科専門医（日本小児外科学会）

心臓血管外科専門医（日本胸部外科学会，日本心臓血管外科学会，日本血管外科学会）

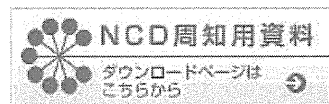
内分泌・甲状腺外科専門医（日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会）

乳腺専門医（日本乳癌学会）



## 5. 今後の予定

2011年1月1日（手術日）の症例から登録が始まっています。また今後の各種専門医申請において使用される手術実績は、本データベース事業に登録された症例のみが対象となる見込みです。今後の進捗状況については順次ホームページで公開します。



▲このページのトップ

[ホーム](#) | [NCDについて](#) | [よくある質問](#) | [リンク](#) | [お問い合わせ](#)

Copyright (C) National Clinical Database. All Rights Reserved.

[ホーム](#)

[NCDについて](#)

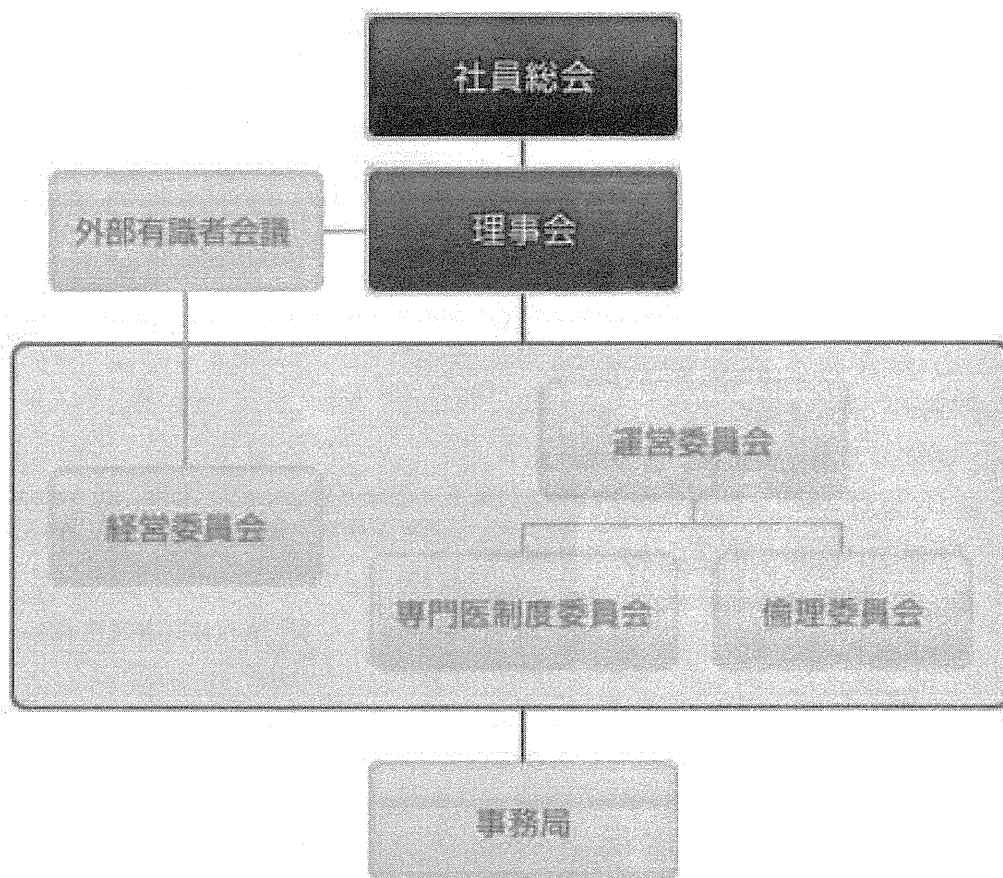
[よくある質問](#)

# NCDについて


[ホーム](#) > [NCDについて](#) > [組織図](#)


## 組織図

### NCD組織図



 [症例を登録する](#)

 [初めての方へ](#)

 **NCD周知用資料**  
ダウンロードページは  
CS505

[ホーム](#)

[NCDについて](#)

[よくある質問](#)

[リンク](#)

[お問い合わせ](#)

## 外科専門医制度と連携したデータベース事業 「National Clinical Database」について

病院医療の崩壊や医師の偏在が叫ばれ、多くの学会や団体が医療再建に向けて新たな提言を行っていますが、どのような場所でどのような医療が行われているかが把握されていない状況では、患者さん目線の良質な医療は提供できません。そこで日本外科学会は、関連する多くの外科系学会と連携し、わが国の外科医療の現状を把握するため、『一般社団法人National Clinical Database』（以下、NCD）を立ち上げることといたしました。この新法人における事業を通じて、外科関連の専門医の適正配置が検討できるだけでなく、臨床現場の治療成績向上に向けた取り組みも支援することが可能となります。今の外科医を取り巻く状況は、外科医不足や過酷な労働環境など非常に厳しいものがあります。しかしながら我々外科関連学会では、率先して社会に貢献する中で、この状況を改善していきたいと考えています。皆様のご理解とご支援を頂けましたら幸いです。

社団法人日本外科学会 理事長

一般社団法人 National Clinical Database 代表理事

里見 進

### NCDの目指すもの

#### 1. 外科関連の専門医のあり方を考えるための共通基盤の構築

日本では現在、多くの診療科領域において、どのような場所でどのような手術が、誰によって、どの程度の数が行われているかが、把握されていない状況です。外科関連の専門医の適正配置を考える上では、現状を把握することがなによりも重要です。外科医は、自ら実施したすべての手術をNCDのデータベースに登録します。NCDでは、患者さんに最善の医療を提供するため、これらのデータを分析・評価し、外科医療の現状を体系的に把握します。

#### 2. 医療水準の把握と改善に向けた取り組みの支援

NCDに参加することにより、各施設は、重症度補正等を行った医療水準を示す指標（真の実力）を把握することができます。全施設の傾向と自施設を対比する中で、自施設の特徴と課題を把握し、各施設それぞれが改善に向けた取り組みを行うこととなります。国内外の多くの事例では、このような臨床現場主導の取り組みを支援することにより、品質向上に大きな成果を上げています。

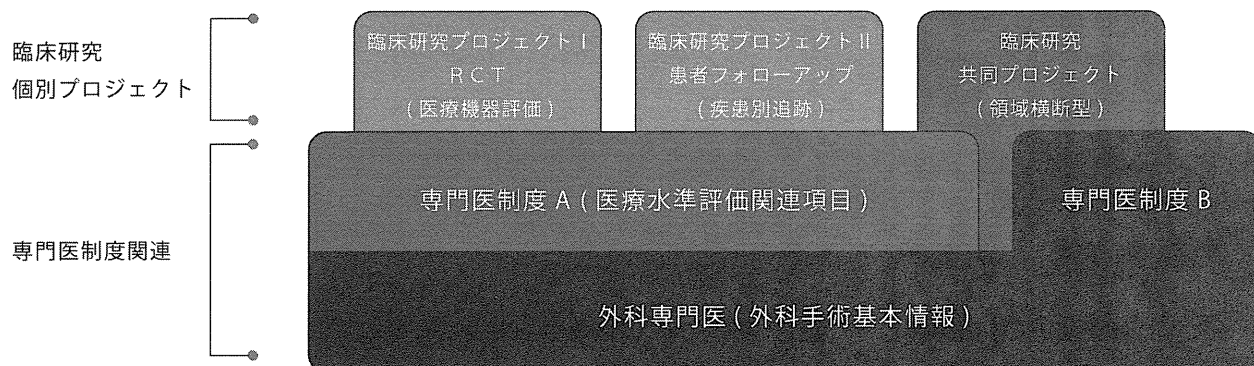
#### 3. 患者さんに最善の医療を提供するための政策提言

NCDのデータ解析により、日本全体として質の高い医療を提供する上で望ましい施設環境や、促進すべき医療プロセスが明らかになります。外科関連学会はNCDの活用により、最善の医療を提供するための体制整備や取り組みの促進について、根拠に基づいた検討を行うことができます。また今後は、外科関連学会をはじめとした専門家集団だけでなく、地域の方々や患者さん、保険者や行政と連携した活動も行っていく予定です。

#### ❁ 4. 領域の垣根を越えた学会間の連携

NCDは日本外科学会の外科専門医制度のみならず、外科関連の専門医制度が合同で行うものです。法人設置時の参加団体としては下記の学会・専門医制度が予定されています。広範な診療科領域が連携し、医療の質向上に取り組む活動は、国内外でも例がない先進的な事例です。日本の医療を更に良いものにし、国際的なリーダーシップを示していく上でも非常に期待される事業です。

- 外科専門医 (日本外科学会) 以下50音順
- 呼吸器外科専門医 (日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会)
- 消化器外科専門医 (日本消化器外科学会)
- 小児外科専門医 (日本小児外科学会)
- 心臓血管外科専門医 (日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会)
- 内分泌・甲状腺外科専門医 (日本内分泌外科学会)
- 乳腺専門医 (日本乳癌学会)



#### ❁ 5. 今後の予定

外科症例の登録は、2011年1月1日（手術日）の症例から開始する予定です。また今後の各種専門医申請において使用される手術実績は、本データベース事業に登録された症例のみが対象となる見込みです。今後の進捗状況については順次ホームページで開示します。




National Clinical Database 事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 20 階

TEL: 03 6269 3490 FAX: 03 6269 3418 Email: office@ncd-core.jp





**2011年1月1日**

の手術症例から登録がスタートします

**専門医登録制度が変わります**

外科専門医、消化器外科専門医（+肝胆膵高度技能医）、小児外科専門医、心臓血管外科専門医

各種専門医の更新にはNCDに登録された症例データが必要になります。

外科関連の専門医制度データベースが統一されることで、1症例につき一度の手術（症例）登録のみで複数の専門医制度への登録を行うことが可能となります。

詳しくは、<http://www.ncd.or.jp/> にアクセス



## National Clinical Database Case Report Form : 外科専門医共通項目

院内管理コード		登録の拒否申請	<input type="radio"/> あり	登録拒否の申し出があった場合は「あり」を記載する。
患者生年月日	_____年__月__日	患者性別	<input type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女	
入院日	_____年__月__日	救急搬送	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり	救急車による搬送で入院したか。
救急搬送時の郵便番号または患者居住地の郵便番号	郵便番号(7桁)〒 _____  <input type="radio"/> 特定不能または国外 (所在地情報) _____	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急搬送が[なし]の場合: 患者居住地の郵便番号とする。</li> <li>・救急搬送が[あり]の場合: 救急車の要請があった搬送元の住所とする。</li> <li>・「特定不能または国外」の場合は、所在地に関する情報を記載する。</li> </ul>		
入院時診断	入院時診断をICD10コード(3桁まで)で記載 診断1 _____ 診断2 _____ 診断3 _____ 診断4 _____ 診断5 _____ 診断6 _____ 診断7 _____ 診断8 _____			
診断名補足				
緊急手術	<input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	手術をしなければ患者の生命予後や身体機能に著しい影響を及ぼすと判断され、手術実施決定後、即日(24時間以内)に行われた手術		
手術日	_____年__月__日			
術式1	コード	術式	<input type="checkbox"/> 内視鏡手術 <input type="checkbox"/> 外傷手術	
	術式1 術者名 術者 _____ 助手1 _____ 助手2 _____ 助手3 _____ 助手4 _____ 助手5 _____ 助手6 _____ 助手7 _____ 助手8 _____			
術式2	コード	術式	<input type="checkbox"/> 内視鏡手術 <input type="checkbox"/> 外傷手術	
	術式2 術者名 (術式1の術者チームと異なる場合に記載) 術者名 術者 _____ 助手1 _____ 助手2 _____ 助手3 _____ 助手4 _____ 助手5 _____ 助手6 _____ 助手7 _____ 助手8 _____			
術式3 (※術式4以降は別紙に記載)	コード	術式	<input type="checkbox"/> 内視鏡手術 <input type="checkbox"/> 外傷手術	
	術式3 術者名 (術式1の術者チームと異なる場合に記載) 術者名 術者 _____ 助手1 _____ 助手2 _____ 助手3 _____ 助手4 _____ 助手5 _____ 助手6 _____ 助手7 _____ 助手8 _____			
同時に行われた領域の異なる手術術式 (※術式4以降は別紙に記載)	(「あり」の場合は、以下に記載)			
	コード	術式		
	術式1 _____		同時に行われた領域の異なる手術が行われた場合に記載。この場合は、別の症例レコードとして、異なる領域の術者が登録。	
	術式2 _____			
	術式3 _____			
麻酔科医の関与	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり			
術後診断 (※診断5以降は別紙に記載)	術後診断が入院時診断と異なる場合に、ICD10コード(3桁まで)を以下に記載 診断1 _____ 診断2 _____ 診断3 _____ 診断4 _____			

平成 23 年〇月〇日

〇〇病院

〇〇科

診療科長 〇〇 〇〇 先生御侍史

National Clinical Database

運営委員長 岩中 督

### 施設訪問 ご協力をお願い

平素より National Clinical Database(NCD)にご協力頂き、厚く御礼申し上げます。

NCD では、データベースの信頼性を担保し、質の高いデータであることを保証することを目的として、「データベースに入力されたデータ」と「各医療機関の診療記録」の照合によるデータの質の検証業務（施設訪問によるデータ照合）の実施を検討しております。この業務を通じて、実際の現場でのデータ入力体制やデータ入力にあたっての改善点など、ぜひ現場の声をお聞かせいただければと考えております。現場の声をもとに、NCD 全体の課題を明らかにすることで、NCD のよりよい事業を目指していく所存です。

来年度より本業務を開始するにあたり、入力データと診療記録を照合するための方法などを検討するために、この度、貴病院のご協力を賜りたくご連絡させて頂きました。実際に病院にお伺いして、診療記録の照合作業や先生方へのインタビューをお願いできればと考えております。詳細につきましては、別紙をご参照頂けましたら幸いに存じます。

なお、本業務は、東京大学医療品質評価学講座に委託して実施致します。添付の資料をご確認のうえ、メールにてお返事を賜りたく、また添付資料「データ照合のための診療記録閲覧 許可証」（様式 3）、施設訪問・日程調整連絡票（様式 4）を、東京大学医療品質評価学講座までご返送ください。ご不明な点は、下記問い合わせ先までお願い致します。

ご多忙の折に大変恐縮ですが、ご検討賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

#### 記

- ・ 施設訪問によるデータ照合 ご協力をお願い（本紙）
- ・ 施設訪問のご依頼内容（様式 1）
- ・ データ照合のための診療記録閲覧 申請書（様式 2）
- ・ データ照合のための診療記録閲覧 許可証（様式 3）
- ・ NCD 施設訪問・日程調整連絡票（様式 4）

以上

<問い合わせ先>

東京大学大学院医学系研究科 医療品質評価学講座

（担当：宮田裕章、友滝愛）

## 施設訪問のご依頼内容

### 1. 日程について

訪問は、1日(9:00～17:00)を考えております。ご都合のよい日程をお知らせ頂ければ幸いです。

### 2. 当日ご協力頂きたい事項

現時点で登録されている症例を対象に、来年度に実施する登録の悉皆性・データの正確性の検証方法の検討にご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。なお、実際の照合は当方で行います。

#### (1) 手術台帳（または、手術台帳相当）の特定と実際の照合

登録の悉皆性を検証する方法として、手術台帳（もしくは、手術台帳に相当するもの）と実際にNCDに登録された症例の照合を検討しております。一方、NCDでは、手術室で行われた手術症例以外にも登録対象となります。そのような手術では、どういった診療記録が台帳に相当するのか、事前に検討しておく必要があると考えております。そこで、手術台帳（もしくは手術台帳に相当するもの）を含め、NCDに登録されるべき症例の一覧がわかるものをご検討頂き、当日ご用意頂ければ幸いです。

#### (2) データの入力元になっている診療記録の特定と実際の照合

外科専門医共通項目とそれ以外の項目で、以下の項目を照合させて頂きたいと考えております。照合の対象となる症例の院内管理コードを事前にお知らせ致しますので、各項目の入力元になる情報が記載されている診療記録をご用意頂ければ幸いです。

(照合対象項目) 院内管理コード、登録の拒否申請、患者生年月日、患者性別、入院日、救急搬送、手術日、退院日、退院時転帰、術後30日状態、死亡日、術者、術式1・2

#### (3) データ入力体制や入力に関するインタビュー

実際にデータベースへの入力に関わっていらっしゃる方々に、30分程度お話を伺いできれば幸いです。

### 3. 対象となる症例

NCD入力データから照合の対象となる症例を抽出し、事前にお知らせ致します。

2011年1月1日～31日、6月1日～30日のそれぞれの期間で行われた手術症例を対象とします。具体的には、以下を確認させて頂きたく、お願い申し上げます。

(1) 登録の悉皆性の検証方法の検討：上記期間に行われた全手術症例

(2) 入力データの正確性の検証方法：上記期間に行われた手術症例から、無作為に抽出

#### 4. 当日のスケジュールについて

下記のようなスケジュール（案）でお願いできましたら幸いです。

- 9:30 ご指定頂いた場所に訪問致します。  
最初に、診療記録の閲覧方法など 15 分程度、ご説明頂ければ幸いです。  
その後、当方で実際に NCD の入力データと診療記録の照合業務に入ります。
- 15:30～16:15 インタビュー  
照合させて頂いた中でわからなかった点などを質問させて頂きたく、お時間を頂ければ幸いです。  
また、実際のデータ入力に関わるインタビューで、30 分ほどお時間を頂きたく、お願い申し上げます。

#### 5. 当日までにご準備頂きたい事項について

診療記録添付資料の「様式 3」に、許可証がございます。大変恐縮ですが、許可証をご作成頂き、東京大学医療品質評価学・担当（友滝）までご返送くださいますよう、お願い申し上げます。許可証を拝受いたしましたのちに、照合と対象となる症例の院内管理コードをご連絡致します。

また、閲覧する診療記録が電子媒体（電子カルテ、オーダーリングシステム等）の場合は、外部者が閲覧するための ID の発行（当日のみの閲覧、閲覧権限のみの ID・パスワードなどの設定）をお願いできましたら幸いに存じます。ご担当頂く先生の ID・パスワードを用いた閲覧は控えて頂きますよう、お願い申し上げます。

その他、照合のための閲覧場所、NCD の Web を閲覧するためのインターネットにアクセス可能なパソコン、該当症例の診療記録の貸し出しの手続きなど、ご準備をお願い申し上げます。

当日の日程調整、お伺いする場所、連絡先等につきましては、施設訪問・日程調整連絡票（様式 4）をご記入の上、担当（友滝）までご返送くださいますよう、お願い申し上げます。

#### 6. 訪問者について

NCD の委託を受けた東京大学医療品質評価学講座のスタッフが伺います。担当者は身分証および守秘義務の誓約書を持参します。訪問で知りえた患者の個人情報などは漏えいせず、データの質検証業務の目的以外ではしないことを誓約致します。その他、ご不明な点は、下記までお願い申し上げます。

<問い合わせ先>

東京大学大学院医学系研究科 医療品質評価学講座  
(担当：宮田裕章、友滝愛)

〇〇病院

病院長 〇〇 〇〇 先生御侍史

〇〇病院 〇〇科

診療科長 〇〇 〇〇 先生御侍史

申請年月日 2011年〇月〇日

## National Clinical Database における データ照合のための診療記録閲覧 申請書

事業名	National Clinical Database (NCD)
申請者	一般社団法人 National Clinical Database 代表理事 里見進, 運営委員長 岩中督
住所 (所在地)	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館20階 一般社団法人 National Clinical Database
閲覧目的	NCDにおけるデータの質検証の一環として、入力データと診療記録の照合を行うため
閲覧対象文書	NCD登録症例の診療記録 (手術記録、麻酔記録含む), 手術台帳に相当する資料等 ※対象となる症例は無作為に抽出し, 後日, 院内管理コードをお知らせ致します
閲覧責任者	一般社団法人 National Clinical Database 運営委員長 岩中督
閲覧者 (委託)	実施責任者 氏名: 宮田裕章 (東京大学医療品質評価学講座 准教授) 住所: 文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院 中央診療棟II期8F  訪問責任者 氏名: 友滝愛 (東京大学医療品質評価学講座 特任研究員) 住所: 文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院 中央診療棟II期8F
閲覧する情報の 取り扱い範囲	施設訪問では、すでに入力されているNCDデータ以外の診療情報を転記することはいたしません。患者個人を特定しない形で、照合した結果の情報のみを使用いたします。施設訪問によって知りえた患者の個人情報、一般社団法人NCDの責任のもと、漏えいのないよう管理致します。 なお、診療記録が電子媒体 (電子カルテ等) の場合には、外部の閲覧者用のID発行 (当日のみの閲覧、閲覧権限のみ等の設定) の手続きを賜りたく、お願い申し上げます。 また、本業務の担当者がNCDデータと照合する際に、一時的に、貴施設診療科の登録症例の閲覧のみを行う「施設訪問用ID」の設定を、NCD事務局を通じて行います。このIDは、本業務の担当者だけに設定され、業務終了後、閲覧権限は失効になります。
閲覧日	後日、貴施設診療科のNCD担当医師と相談の上、決定致します。

## National Clinical Database

運営委員長 岩中 督 殿

下記の申請について、National Clinical Database におけるデータ照合のための診療記録閲覧を許可します。

西暦 年 月 日

施設名

職位・氏名

印

事業名	National Clinical Database (NCD)
申請者	一般社団法人 National Clinical Database 代表理事 里見進, 運営委員長 岩中督
住所 (所在地)	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館20階 一般社団法人 National Clinical Database
閲覧目的	NCDにおけるデータの質検証の一環として、入力データと診療記録の照合を行うため
閲覧対象文書	NCD登録症例の診療記録 (手術記録、麻酔記録含む), 手術台帳に相当する資料等 ※対象となる症例は無作為に抽出し、後日、院内管理コードをお知らせ致します
閲覧責任者	一般社団法人 National Clinical Database 運営委員長 岩中督
閲覧者 (委託)	実施責任者 氏名：宮田裕章 (東京大学医療品質評価学講座 准教授) 住所：文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院 中央診療棟II期8F  訪問責任者 氏名：友滝愛 (東京大学医療品質評価学講座 特任研究員) 住所：文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院 中央診療棟II期8F
閲覧する情報の取り扱い範囲	施設訪問では、すでに入力されているNCDデータ以外の診療情報を転記することはいたしません。患者個人を特定しない形で、照合した結果の情報のみを使用いたします。施設訪問によって知りえた患者の個人情報、一般社団法人NCDの責任のもと、漏えいのないよう管理致します。 なお、診療記録が電子媒体 (電子カルテ等) の場合には、外部の閲覧者用のID発行 (当日のみの閲覧、閲覧権限のみ等の設定) の手続きを賜りたく、お願い申し上げます。 また、本業務の担当者がNCDデータと照合する際に、一時的に、貴施設診療科の登録症例の閲覧のみを行う「施設訪問用ID」の設定を、NCD事務局を通じて行います。このIDは、本業務の担当者だけに設定され、業務終了後、閲覧権限IDは失効になります。
閲覧日	後日、貴施設診療科のNCD担当医師と相談の上、決定致します。

## NCD 施設訪問・日程調整連絡票

NCD データ照合のための診療記録閲覧にご協力いただける場合には、下記をご記入のうえ、「許可書」とあわせてご返送ください。

医療機関名								
診療科名								
診療科長名								
NCD 登録の 施設診療科名								
候補日	第 1 候補：西暦	年	月	日	第 2 候補：西暦	年	月	日
	第 3 候補：西暦	年	月	日				

施設訪問の日程調整のご連絡を差し上げるため、ご担当いただける方についてご記入ください。

当日ご担当頂く担当者名			
TEL (内線または PHS)		FAX	
E-Mail			
当日お伺いする場所			

当日の閲覧環境に関しまして、差し支えなければご教示頂けましたら幸いです。

※該当するものに○をお願いします。なおその他の場合は ( ) にご記載ください。(※全て複数可)

閲覧媒体	1. 電子カルテ    2. 紙の診療記録    3. その他 ( )
NCD 登録症例一 覧確認のための資 料と媒体 (媒体の 例：紙、Excel など)	1. 手術部で作成する手術台帳 (媒体： ) 2. 診療科の医師が作成する台帳 (媒体： ) 3. その他： (媒体： )

ご質問等ございましたら、ご記入ください。

National Clinical Database (NCD) 2012 年度施設訪問の事前検証  
対象症例の一覧および照合項目

施設診療科名：〇〇病院 〇〇科  
NCD 登録施設診療科名：〇〇病院〇〇科

- 1) 2011 年 1 月 1 日～1 月 31 日、6 月 1 日～6 月 30 日までに実施された手術症例について、貴施設の一覧リストと照合致します。照合が可能な手術台帳（または、手術台帳相当の診療記録など）のご準備をお願い申し上げます。
- 2) NCD にご入力頂いた症例のうち、実際の診療記録と NCD 入力データを照合するため、以下の症例について診療記録を閲覧させて頂きたくお願い申し上げます。

専門医分野	院内管理コード	入院 X 回目	手術 X 回目	入院日	手術日
〇〇専門医	0123456	1	1	2011 年 1 月 1 日	2011 年 1 月 1 日

- 3) 診療記録と照合する項目は、以下になります。該当する診療情報が含まれている診療記録のご準備をお願い申し上げます。

- ・ 院内管理コード      ・ 登録の拒否申請      ・ 患者生年月日      ・ 患者性別
- ・ 入院日                  ・ 救急搬送                  ・ 手術日                  ・ 術者
- ・ 術式 1                  ・ 術式 2                  ・ 退院日\*                  ・ 退院時転帰\*
- ・ 術後 30 日状態\*      ・ 死亡日\*

(\*の項目は、サブスペシャリティの専門医が選択されている症例についてのみ実施)